

第 32 回委員会（2004.8.24 開催）結果報告		2004.9.10 庶務発信
開催日時：	2004 年 8 月 24 日（火）10：00～13：35	
場 所：	カラスマプラザ 21 8 階 大・中ホール	
参加者数：	委員 32 名、河川管理者（指定席）23 名 一般傍聴者（マスコミ含む）195 名	
1 審議の概要	<p>状況報告</p> <p>庶務から資料 1「前々回委員会（2004.6.22）以降の状況報告」を用いて報告が行われた。</p> <p>ダムWGにおける検討経過</p> <p>今本ダムWGリーダーより、ダムWGの開催状況について報告が行われた後、資料 2-1「事業中のダムの検討事項」を用いて説明が行われた。その後、各ダムについて、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダムの目的として「環境」が新たに付け加えられたが、ダムWGでは、このメリット・デメリットを比較検討して、資料 2-1 の主な論点を詳細化していけば良いと思う。 ・まずは、水位操作でどこまで対応できるかを徹底的に検討するべきだろう。現在のところ、十分には検討できていない。限界まで水位操作で対応して、それでも発生する浸水被害は我慢するのか、あるいはダムで対応するのか、といった議論をしていくべきだ。 ・丹生ダムの目的として、「環境」が付け加えられたということは、今後、費用便益分析とともに環境便益分析を実施していくことになる。しかし、ダムが環境に与える影響の評価は非常に難しい。環境便益分析の評価に耐えうる十分な検討が必要だ。 ・丹生ダムの「流水の正常な機能の維持」や「琵琶湖の水位低下抑制」については、主に水量の検討が進められており、水質はほとんど検討されていない。水質についても議論をしていくべきだ。 ・精査確認中の「利水」の結果しだいで、ダムの議論は大きく変わる。精査確認の見通しについて教えてほしい。 <p>現在は、新規ダムに参画する利水者が水需要の精査をしている状況。河川管理者としても、流域の水利用や湯水時の調整等を検討していかなければならないと思っている（河川管理者）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダムWGでは、琵琶湖水位に関する議論は避けた方がよいのではないかと。水位操作が琵琶湖の環境に与える影響はほとんどわかっておらず、これから調査していくべき課題なので、現時点で、ダムWGで審議するのは効率的ではない。 ・ダムWGで資料 2-1 を詳細化していけばよいという意見があったが、その作業は各委員がしていかなければならない。特に第 4 回ダムWGの資料を検討して、審議すべき論点を提出してほしい。 ・ダム建設の妥当性について審議する際には、治水をメインに議論していくべきだ。環境については評価が非常に難しく、利水は今後、水需要コントロールが主体となるだろう。治水をメインに据えて、代替案や環境への問題点を議論していく方がよい。 ・これまではハイウォーターレベル以下で流れる流量だけを問題にしてきた。しかし、やはり、ハイウォーターレベル以上で流れる流量についても検討するべきだ。 <p>堤防がどのような状況になったとき破堤するかについては、「ハイウォーターレベルで破堤する場合どうなるか」「堤防天端までで破堤しなかった場合どうなるか」「堤防天端を越水したとして破堤しない場合どうなるか」という 3 つのパターンにおける検討結果を一部のダムでは示している。他のダムでもこれらのケースにおける検討結果を示していきたい（河川管理者）。</p>	

- ・破堤による壊滅的な被害を回避するためには、堤防補強は避けて通れない。これまでの河川管理者の説明は、在来の工法の延長にある説明だったが、新たな工法（ハイブリット堤防）を真剣に議論していくべきだ。
- ・高時川は天井川であり、危険な状態にある。住民の避難経路確保や土地利用の改善も重要だが、それだけでは、高時川周辺の住民は常に不安にさらされたままだ。あらゆる対策の比較検討を行って、浸水しやすい状況がある程度は解消すべきだと考えている。
- ・ダムWGでは、ダムによって生ずる様々な影響（河川分断、堆砂問題、環境問題等）を併せて審議するべきだ。治水だけを優先して議論すべきではない。
- ・少雨化傾向や降雨パターンの変動によって利水安全度が低下しているとの報告もある。長期的に見れば、利水安全度を上げる必要性もあるのではないか。論点のひとつになるのではないか。
- ・ダムWGには、本日の意見を参考にして審議を進めて頂きたい。論点として追加すべきものがあれば、意見として提出して頂きたい。

委員会の今後の運営方針

主に今後の検討スケジュールについて、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・運営会議でダムWGの検討スケジュールを決定したわけではない。今後3ヶ月間で河川管理者の説明やダムWGの検討がどうなるかわからないが、今から任期の延長を前提にして議論を進めるのではなく、任期内で当初の予定通りやり遂げる努力をしようという目標の確認を行った。万が一、河川管理者の資料提供が滞り、委員会としての結論が出せないということになった場合は、その時点で対応を決めればよいだろう。まずは、最大限努力していくことが大事だ。

2 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者5名より発言があった。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・川上ダムの論点として、活断層についても追加すべきだ。また、5313型降雨を防ぐための越流堤の諸元の検討も論点の1つになる。
- ・ダムによる誘発地震の検討なくして、ダム建設はあり得ない。留意して頂きたい。
- ・ダムWGでの論点として、塔の島地区 1500m³/s の切り下げ、天ヶ瀬ダムから宇治橋下流への迂回トンネル。また、1500m³/s 放流の安全性について、検討をお願いしたい。
- ・参考資料1として、水需要に関して3つの意見を提出した。流域における利水安全度の低下は恐れるに足らない。大阪府営水道の水需要予測 253 万 m³/日は過大であり、大阪臨海工業用水道企業団までの水利権 238 万 m³/日で充分まかなえる。大阪府営水道から入手した資料一式と大阪府が設置した水需要部会の資料を天応下。また、これらについての説明会を9/5に開催する。
- ・ダムWGでは、琵琶湖の水位操作をどう変更したら、どれだけの効果があるのかについて、検討すればよいのではないか。また、ダムを中止した場合に誰がどれだけのコストを負担しなければならないのか等の情報を利水者に提供すれば、利水の精査確認もスムーズに進むだろう。

3 その他

庶務より今後の委員会開催スケジュールについて説明があった。

このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。